6 月 23 日の黙想を受けて（ここをクリックすると伝道者の黙想が開きます）

（ヨハネの福音書　第 1 章　23 節）

「あなたはだれですか。」と疑いと敵意を持って尋ねられたら、今の自分ならどう答えるだろうか。「主イエス・キリストが私の罪のために十字架にかかり血を流してくださり、神の子としていただいた者です。」と答えたいように思う。バプテスマのヨハネがこの福音書の第 3 章 29 節から 30 節で「花嫁を迎える者は花婿です。そこにいて、花婿のことばに耳を傾けているその友人は、花婿の声を聞いて大いに喜びます。それで、私もその喜びで満たされています。あの方は盛んになり私は衰えなければなりません。」と言ったことを想います。

どうか僕たちイエス・キリストの友人としていただいた者たちが、イエスの声を聞いて大いに喜び、僕たちの心の中で、ますますイエスが盛んになってくださり僕たちは衰えてイエスの御前に静まっていきますように。

6 月 25 日の黙想を受けて（ここをクリックすると伝道者の黙想が開きます）

（ヨハネの福音書　第 1 章　36 節）

バプテスマのヨハネの声を聞き、イエスの後ろ姿を見るときに、イエスについていきたくなる。しかし、イエスは神の子羊、アブラハムが愛するひとり子イサクをいけにえとして捧げようとしたとき神が代わりに雄羊を備えておられたように、父なる神がいけにえとして備えられた方。イエスについていくとペテロのように若いときは歩きたい所を歩かせてくださるが、そうして心が成長して用意ができた時にはイエスの苦しみに与る使命もいただくのだろう。その先にある永遠の祝福のイエスを見ながら、イエスにずっとついていきたい。

どうか僕たちがイエスから目を離さず、試練があってもずっとイエスについていくことができますように。

（まさお）